

大南地区

1. まちづくりの目標

「豊かな地域資源を生かした 交流拠点の形成」



本地区は、その多くを本宮山、天面山などの山地及び丘陵地が占め、また大野川及びその支流が集落地をはぐくんでいます。

この大野川沿いの戸次周辺では、豊かな水利を活用して水田や畑地などの農用地が広がっており、在町として栄えた趣ある歴史的建造物も存在し、これらを整備・保全し、交流の促進を図る地域です。

判田地区においては、JR 中判田駅を中心として既存集落や開発団地により市街地が形成されており、駅の利便性向上に向けた取組やスポーツ施設の整備等を通じた多世代交流の促進など、地区の核となる拠点の形成が求められています。

また、吉野、竹中地区などの集落にあっては、農産物の供給及び森林資源の生産拠点としての役割を担っていますが、人口減少などが大きな課題となっています。

このように、本地区は、戸次・中判田地区などの新たな核を整備することが必要な地域と、吉野・竹中・河原内地区などの豊かな自然との共生の中で営まれる本市のふるさとを創造し保全すべき地域が存在しています。

このようなことから本地区は、「豊かな地域資源を生かした交流拠点の形成」をまちづくりの目標とします。

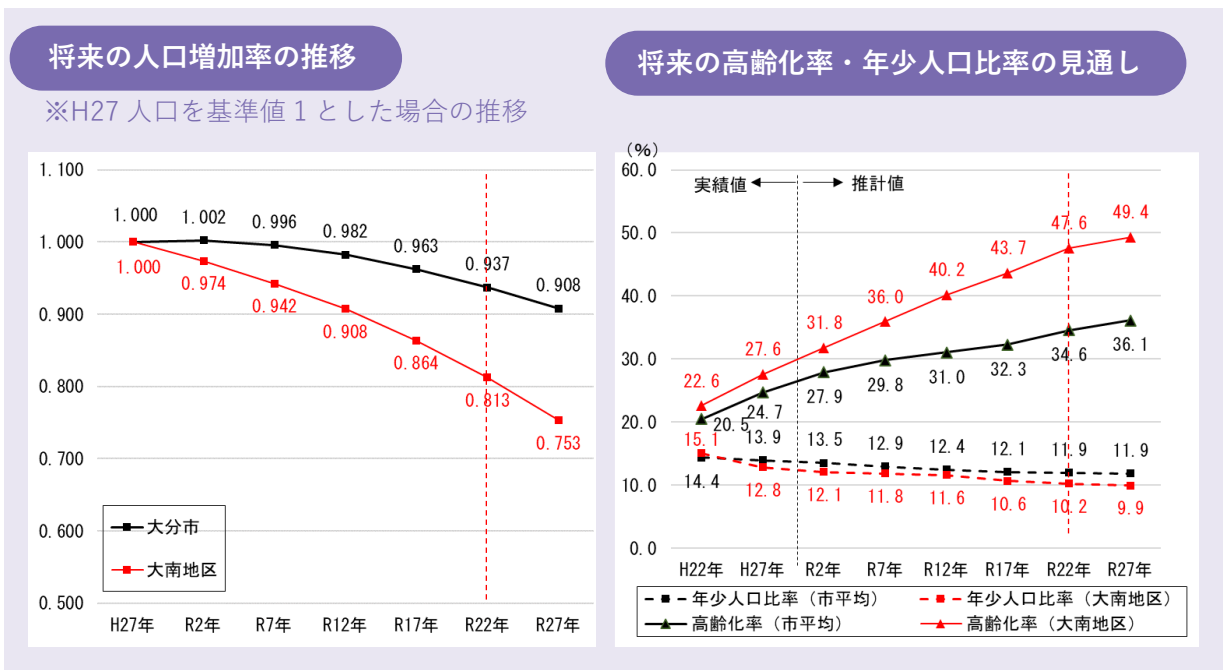
大南地区の将来都市構造図



第3章 地区別構想

2. 地区の現況

- ・大野川沿いやその支流の小筒井川・河原内川沿いに集落が形成され、日向街道筋の在町（戸次本町）などの歴史的資源が豊富な地区です。
- ・地区人口は、昭和38年の約1.8万人から平成17年には約2.8万人に増加したものの、その後減少傾向に転じ、平成27年には約2.7万人となっています。
- ・将来人口は、令和22年には2割弱減少する見通しです。高齢化率は、平成27年に27.6%と本市平均と比較すると高い割合を示し、令和22年には47.6%となる見通しです。
- ・年少人口は、おおむね本市平均と同程度の割合で推移する見通しです。

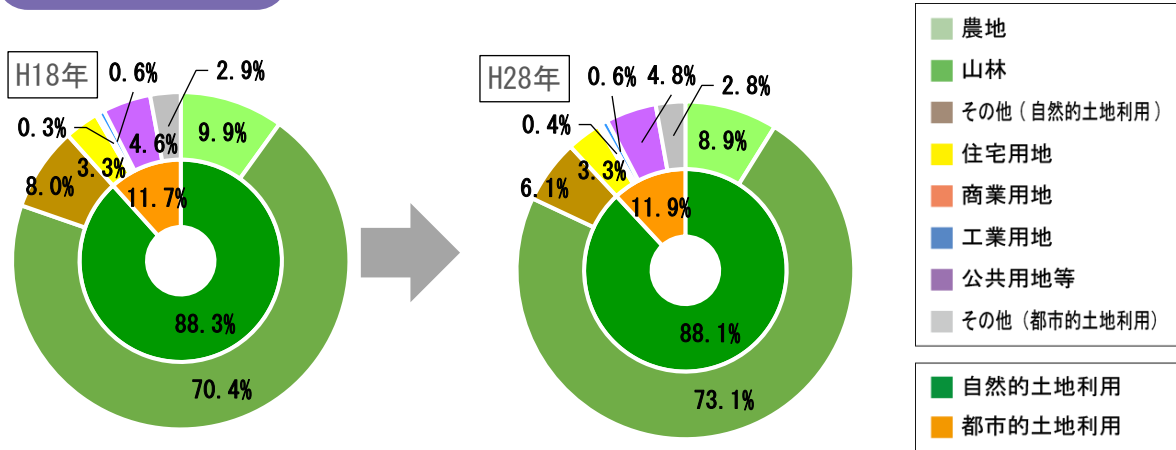


※推計値は、「大分市人口ビジョン」に示す「地域別の人口推移」を基に作成

※この推計は、2010年から2015年までの5年間の人口変動が将来にわたって続くことと仮定し計算したものであるため、2016年以降に人口変動に大きな影響を及ぼす要因が発生した場合、将来人口推計が大きく変化する可能性があります。

- ・土地利用動向については、地区面積 12,002ha で、宅地や道路などの都市的土地利用面積が 11.9%、森林などの自然的土地利用面積 88.1%となっています。平成 18 年から平成 28 年にかけて農地の減少がみられます。

土地利用の動向



- ・交通体系としては、都市内連携軸として国道 10 号、県道坂ノ市中戸次線、(都)下郡中判田線、県道鶴崎大南線、地区内連携軸として県道臼杵上戸次線、県道中判田犬飼線、県道弓立上戸次線などで構成されています。
- ・中判田地区は広域的な道路網が集約され、中心市街地に向かう交通が国道 10 号に依存していることから、交通渋滞が発生しており、その対策として、国道 10 号高江拡幅事業が実施されています。



戸次本町



国道 10 号沿道

第3章 地区別構想

3. まちづくりの課題

1 | 土地利用・市街地整備

- ・ JR 中判田駅周辺では、国道 10 号高江拡幅整備と合わせ、鉄道や幹線道路網を生かした交通結節機能の強化や都市基盤の整備、新たな都市機能の誘導など、計画的な市街地整備による地区拠点の形成が求められています。
- ・ 戸次地区では、商業・業務機能の集積による、歴史的なまちなみを生かした地区拠点の形成が求められています。
- ・ 判田地区などの住宅団地や既成市街地では、良好な住環境の維持・保全が求められています。
- ・ 市街化調整区域の既存集落では、生活利便施設の不足等への対応として、地域コミュニティを維持し、地域の活性化を図るための継続的な取組が必要です。
- ・ 産業機能の強化や地域活力の増進などを目的に、企業誘致等を考慮した土地利用の在り方について検討が必要です。
- ・ 国道 10 号沿道においては、沿道利用の促進が求められています。

2 | 交通施設

- ・ 本市と熊本市を結び九州の循環型高速道路ネットワーク及び地域連携軸を形成する中九州横断道路の整備が求められています。
- ・ 国道 10 号において交通渋滞が発生しており、拡幅整備が求められています。
- ・ 鶴崎方面との連携を強化するため、道路の拡幅整備が求められています。
- ・ 戸次市街地の通過交通の分散のため、新規バイパスの整備が求められています。
- ・ JR 中判田駅の交通結節機能の強化が求められています。
- ・ JR 竹中駅の利便性の向上が求められています。
- ・ 少子高齢化の進展等に備え、交通弱者の移動の利便性や安全性を向上させる必要があります。

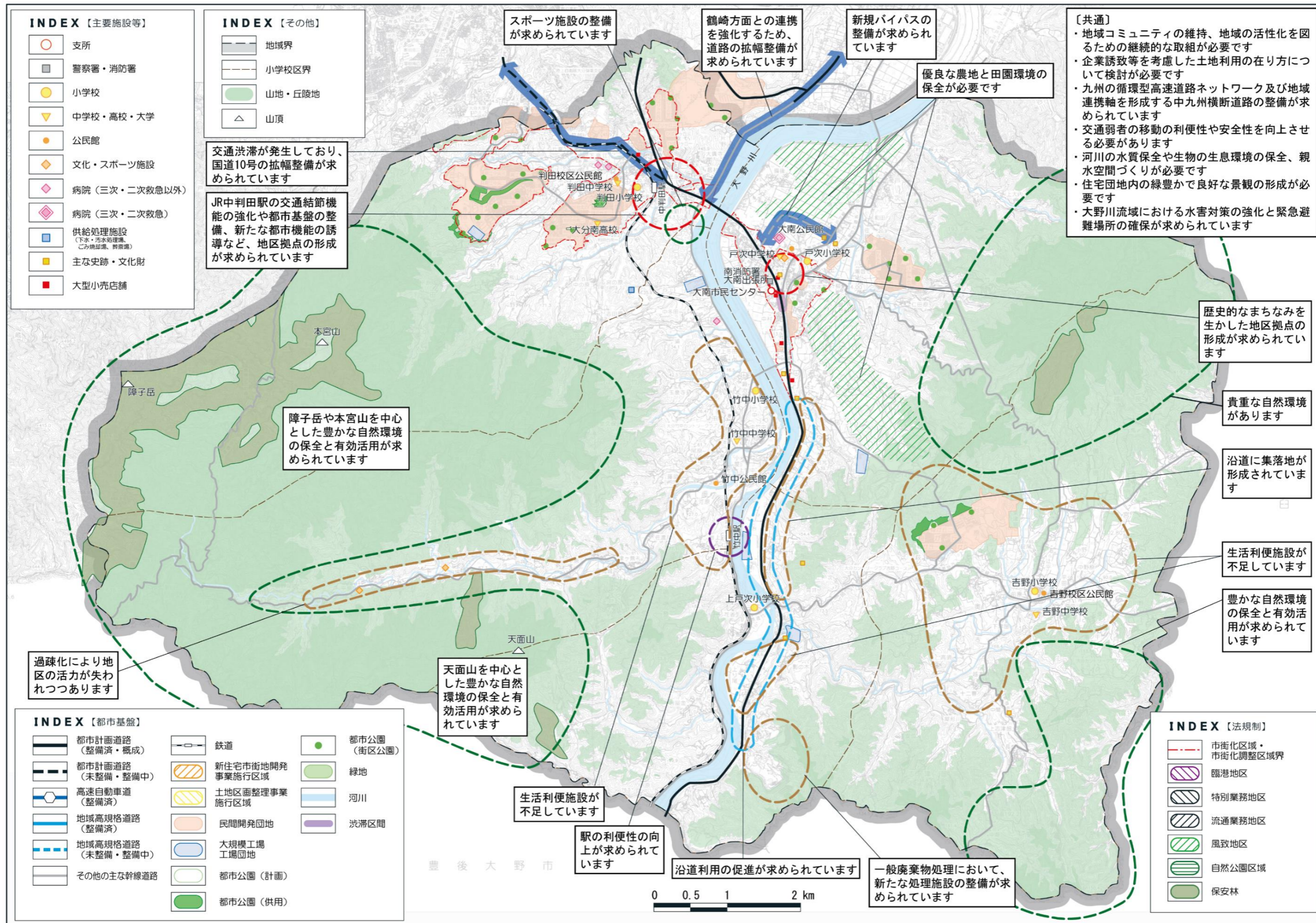
3 | 環境・景観

- ・ 障子岳や本宮山、天面山などの豊かな自然環境の保全と有効活用が求められています。
- ・ 河川の水質保全や生物の生息環境の保全、親水空間づくりが必要です。
- ・ 住宅団地内における緑豊かで良好な景観の形成が求められています。
- ・ 優良な農地と田園環境の保全が求められています。
- ・ 戸次本町地区においては、歴史的資源の整備・保全と、それらを生かしたまちづくりの推進が必要です。

4 | その他

- ・ 高齢者や子ども等の多世代交流と健康増進のため、スポーツ施設の整備が求められています。
- ・ 一般廃棄物処理において、周辺都市を含めた広範囲の処理に対応できるよう、新たな処理施設の整備が求められています。
- ・ 大野川流域では毎年のように水害が発生しており、対策の強化と、緊急避難場所の確保が求められています。

大南地区の現況及び課題図



序章 都市計画マスタープランとは

第1章 都市づくりの目標

第2章 全体構想

第3章 地区別構想 大南地区

第4章 計画の実現に向けて

4. まちづくりの方針

1 | 土地利用・市街地整備

- ・ JR 中判田駅周辺においては、交通結節機能を強化するとともに計画的な市街地整備に向けた取組を進め、大南地区の交流拠点となる南部地区拠点の形成を図ります。
- ・ 戸次本町周辺においては、歴史的まちなみを生かした地区拠点の形成を図り、住みやすい市街地の形成を図ります。
- ・ 判田地区などの住宅団地や既成市街地では、良好な住環境の維持・保全を図ります。
- ・ 人口減少の著しい竹中、吉野、上戸次小学校区並びに百木、板山、小岳、住床、立小野地区内の既存集落では、地域コミュニティの維持、形成に向けた適切な制度運用を行うとともに、道路整備等による周辺環境の変化に対応した地域活性化施策の展開、集落環境の充実を図ります。
- ・ 国道 10 号沿道においては、地域の活性化に向けた沿道利用の促進を図ります。
- ・ 市街化調整区域の土地利用の在り方を検討するとともに、産業の振興、雇用の創出に資する新たな研究等施設エリアの形成を目指します。

2 | 交通施設

- ・ 中九州横断道路の早期整備に向けた取組を進め、地域間連携の強化、地域集積圏の形成、物流観光、防災等との波及効果による地域活性化を図ります。
- ・ 国道 10 号高江拡幅事業を促進します。
- ・ 県道鶴崎大南線の拡幅整備を促進し、鶴崎方面との連携強化を図ります。
- ・ 戸次市街地における通過交通の分散のため、新規バイパスの整備を進めます。
- ・ JR 中判田駅において、アクセス道路の整備など交通結節機能の強化に向けた取組を進めます。
- ・ JR 竹中駅における駅の利便性の向上を促進します。
- ・ 歩道などのバリアフリー化を推進します。
- ・ 公共交通の充実に向けて関係機関にはたらきかけます。



JR 中判田駅



竹中駅からの森（出典：おおいたきれい百選）

第3章 地区別構想

3 | 環境・景観

- ・障子岳や本宮山、天面山を中心とした貴重な自然環境の保全を図ります。
- ・大野川の水質浄化を地域住民や企業にはたらきかけ、良好な水辺環境の維持・形成を図ります。
- ・街路樹や法面緑地の維持・整備、宅地内緑化のはたらきかけなど、住宅団地の緑化を促進します。
- ・大野川周辺や山間部に広がる優良な農地と田園環境の保全を図ります。
- ・戸次本町地区において、歴史的なまちなみを生かした景観の形成・保全を推進します。

4 | その他

- ・判田・竹中地区において、地域で身近に利用できるスポーツ施設の整備を推進します。
- ・上戸次地区において、新たな一般廃棄物処理施設の整備を推進します。また、大規模災害時における救援物資等の配送拠点及び水害時の緊急避難場所の機能を併せ持った防災拠点施設の整備を推進します。

大南地区のまちづくりの方針図

